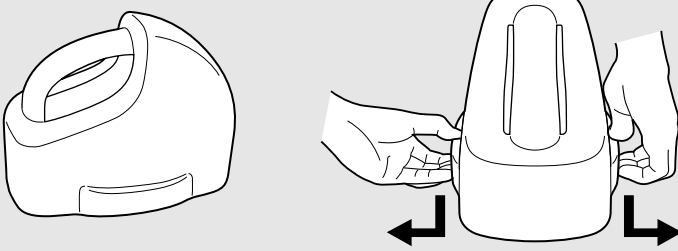


ケース

■ケースの外し方(テーブルなどに置いてから)



両サイドを下へ押しながら開き、持ち上げてください。

1 タンクに上水道の水を入れる

(ドライで使う場合は水は不要)

①ドライ/スチーム切換ボタンを「**㊦ドライ**」にする
(水もれ防止のため)

②タンク取外しボタンを押しながら、タンクを外す

③注水口ふたを開け、水を入れる
上水道の水以外は入れない

④注水口ふたを必ず閉めてから、「カチッ」と音がするまで押してタンクを取り付ける

こんな水は入れないで！

●ミネラルウォーター ●軟水器の水
●アルカリイオン整水器
●リネンウォーターなどの香料を含んだ水など

●水を入れ過ぎるとスタンドに置いたとき、スチームが出ます。
※タンクに水を入れる前に、電源プラグをコンセントへ差し込まないでください。

滴水目盛まで

交流100V

電源プラグ

電源コード

赤印
※この印以上引き出さない。

4 温度表示ランプが『点滅→点灯』したら使用する

●アイロンをスタンドから外したときは、温度表示ランプは消えます。

●使いはじめに、においがすることがありますが、異常ではありません。
においが衣類に移ることもありません。

シャットボタン

●シャットボタンを操作する。(操作回数の目安：約10回)
2秒間隔より早く操作しないでください。また、シャットの勢いが弱くなったら操作しないでください。(湯沸が出てやけどの原因)
シャットの勢いが弱くなったら、給電してからお使いください。
●スチームとシャットの両方を使うと、シャットの勢いが弱くなる場合があります。

パワーシャット

シャットを全体にかけて形を整えます。

ハンガーシャット

シャットをたっぷりかけ、たて方向に引っ張りながら整えます。

ご使用例

●セーター●

●背広／コート●

全体仕上げ

伸びきった袖口やゴム編み部分

ハンガーにつるしたままの衣類に

コートや毛足の長い衣類は…
シャットをかけた後、水分を残さないようにお手持ちのブラシで毛足を整えます。

ドライ／スチーム切換ボタン

シャットボタン

温度設定ボタン

とって

タンク取外しボタン

タンク

カバー

かけ面

繊維案内表示

交流100V

電源プラグ

電源コード

赤印
※この印以上引き出さない。

2 電源プラグをコンセントに差し込む

●**切**ランプが点灯

※電源プラグをコンセントに差し込んでいる間は、アイロンを放置したままその場を離れないでください。

3 アイロンをスタンドに置き

設定を押して温度を設定する

※スタンドに置かないと、温度設定ができません。

㊦ドライ

㊧スチーム

温度表示ランプ

点滅

(中)に設定するとき

衣類に給表示がないときはスタンドの繊維案内表示を参考にしてください。

シャット

必ず(高)に設定する

温度表示ランプ

点滅

(低)や(中)では水もれしたり、シャットが出ないことがあります。

ガンコなシワを上手に伸ばすには

シャットをかけると効果的です。

ドライ／スチーム切換ボタン

㊦ドライの場合

「**㊦ドライ**」にする。

㊧スチームの場合

「**㊧スチーム**」にする。

操作部

スチーム
高
中
低
切
設定

給電をしましょう(必ず専用のスタンドをお使いください)

接続部へ確実に戻す

●逆方向や横方向に置くと、接続部が変形して通電しなくなります。
●アイロンをスタンドへ戻したとき、ランプが点滅していれば、点灯するまでお待ちください。

●使いはじめに出にくいとき ●シャットボタンを数回操作してください。

●使用中に出にくくなったとき ●約30秒間給電してください。

●タンクの水が少なくなったとき ●滴水目盛まで水を入れてください。

コードレスアイロン

アイロンかけをしていないときにスタンドへ戻しておくと、設定温度を保ち、コード付きのものと同様に使えます。

水もれストッパー

使用中、かけ面温度が下がると、スチームが止まります。作動するとき、内部で「カチン」と音がします。

うっかりストッパー

アイロンをスタンドに放置しておくと、約10分後に自動的にヒーター回路を切にします。
続けて使用する場合は、温度設定をやり直してください。

●布地を傷めないために

熱に弱い布地や色の濃い布地には目立たない部分に「ためしかけ」をし、必要に応じて「あて布」をしてください。

●布地のテクリを防止するには

「あて布」をしてください。

●繊維専用です

他の目的では使わないで！

絵表示の見かたと温度の関係

絵表示の見かた例

絵表示と温度の関係

| 絵表示 | 温度 |
|---------------|-------|
| 中 | 約120℃ |
| 中から | 約160℃ |
| アイロンかけはできません。 | 約200℃ |

※混紡の場合は、低い方の繊維の温度に合わせてください。

低温のものから高温のものへ

アイロンの温度上昇に応じてかけると、時間のムダがありません。前もって衣類を分類しておきましょう。
※高い温度から低い温度に設定すると、低い温度になるまで十数分かかる場合があります。

低 → 中 → 高

アイロンかけのポイント

すべらす

必要以上の力をかけないで衣類の上を軽くすべらせるだけでOK！

押さえる

折り目ははっきりつけたい所やガンコなシワの部分はしっかりと押さえて。

浮かせる

毛足の長いウール繊維の仕上げや、こみ入ったデザイン部分の仕上に。

両手を使って

空いた方の手で布地を引っ張ったり、アイロンを持ち替えたり、両手でまんべんなく。

一方向に

往復させたり、無理な方向にかけると、もどろシワができます。

縫い目は引っ張り気味に

細かいシワが残らないように片方の手で引っ張り気味に。

カフス

内側にアイロンをすべり込ませながらしっかりと。

襟

引っ張りながら、両端から中央に向かって半分ずつかけます。

スプレーのり・洗濯のりなどを使うとき

スプレーのり等の仕上げ剤

洗濯物をよく乾かしてからスプレーのりをかけ、必ず「ドライ」でアイロンかけをします。

●少し固めに仕上げたいときは…

スプレーのり → アイロンかけ(ドライ)

を繰り返します。

(一度に多量のスプレーのりをかけると、かけ面にこびりつく原因になります。)

洗濯のり付けをした生乾きの衣類

「ドライ」でアイロンかけを！

接着芯地など、のりがついているもの

必ず「あて布」をして、アイロンかけを！

かけ面にのりが付着した場合は、その都度お手入れを！ (P.14)

※付着したまま使うと、かけ面にこびりつき、取れにくくなります。

5 ご使用後は

1 温度設定を切にし、コードを収納する

●切にしないで電源プラグを抜くと、次回使用時は、前回の設定温度になることがあります。

2 ドライ／スチーム切換ボタンを必ず「㊦ドライ」にし、タンクの水を捨てる

ドライにする
(水もれ・腐食防止のため)

●水を捨てた後、タンクに水滴が残りますが、差し支えありません。

3 ケースをまっすぐかぶせ手で押さえ確実にセットする

持ち運ぶとき

カチッ

お願い

●通電したままケースをセットしないでください。

警告

電源プラグを持って巻き取る
(プラグが当たって、けがの原因)

注意

ケースをスタンドへ確実にセットする(運搬時)
(アイロン、スタンドが落下してけがの原因)

お手入れ

※電源プラグを抜き、よく冷えてから！

かけ面に付着したのり

よく冷えてから、その都度ぬれた布でふき取る

※クレンザー・シンナーなどは使わないでください。

アイロンやスタンド

やわらかい布でふく

※汚れがひどいときは、薄めた台所用洗剤(中性)を布に含ませてください。

接点

やわらかい布でふく

※磨かないでください。
(接触不良の原因)

接点

かけ面のスチーム穴が詰まったときは、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。